

目 次

令和 4 年 3 月 1 5 日（火曜日）第 2 号

○招集年月日	-----	1 頁
○招集の場所	-----	1 頁
○開 議 日 時	-----	1 頁
○応 招 議 員	-----	1 頁
○不応招議員	-----	1 頁
○出 席 議 員	-----	1 頁
○欠 席 議 員	-----	1 頁
○地方自治法第 1 2 1 条の規定により説明のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○本会議に職務のため出席した者の職氏名	-----	1 頁
○議 事 日 程	-----	2 頁
○開 議 宣 告	-----	3 頁
○一 般 質 問	長崎議員 -----	3 頁
	・ 運転免許証の自主返納者に支援を	
	柏倉議員 -----	5 頁
	・ 駅前のにぎわい創出をどう考える	
	高森議員 -----	9 頁
	・ 長万部駅周辺における土地区画整理事業等の方向性について	
	辻紀樹議員 -----	11 頁
	・ 3 期目への出馬の意向は	
○休会の決定	-----	14 頁
○散 会 宣 告	-----	14 頁

令和4年第1回長万部町議会定例会（第2日目）

◎招集年月日 令和 4年 3月15日（火）

◎招集の場所 長万部町役場 議場

◎開 議 日 時 令和 3年 3月15日（火） 午前10時00分

◎応 招 議 員（10名）

1番	村 川 毅	6番	橋 本 收 司
2番	辻 紀 樹	7番	高 森 功 治
3番	高 橋 克 英	8番	北 川 佳 嗣
4番	大 谷 敏 弥	9番	柏 倉 恵里子
5番	長 崎 厚	10番	辻 義 雄

◎不応招議員 なし

◎出 席 議 員 応招議員に同じ

◎欠 席 議 員 不応招議員に同じ

◎地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町 長	木 幡 正 志	水道ガス課長	中 里 博 也
副 町 長	佐 藤 英 代	出 納 室 長	岡 野 喜美雄
総 務 課 長	佐 藤 久	消 防 長	中 田 義 之
まちづくり推進課長	中 山 裕 幸	病 院 事 務 長	佐 藤 修
新 幹 線 推 進 課 長	岸 上 尚 生	教 育 長	近 藤 英 隆
税 務 課 長	本 前 武 広	学 校 教 育 課 長	對 馬 政 宏
町 民 課 長	佐 藤 剛	社 会 教 育 課 長	神 野 隆 之
保 健 福 祉 課 長	岡 部 忠	選挙管理委員会書記長	佐 藤 久
健 康 推 進 室 長	野 澤 明 子	監 査 事 務 局 長	豊 嶋 慎 一
産 業 振 興 課 長	小 川 洋	農業委員会事務局長	小 川 洋
建 設 課 長	加 藤 慶 一		

◎本会議に職務のため出席した者の職氏名

議 会 事 務 局 長	豊 嶋 慎 一
事 務 局 主 幹	増 田 理 恵
議 事 係	工 藤 大 智

◎議事日程

日程第 1

一 般 質 問

◎開議宣告

１０時００分 開会

○議長（辻義雄） ただいまの出席議員は１０名であります。
定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。
本日の議事日程はあらかじめお手元に配付したとおりであります。

◎一般質問

○議長（辻義雄） 日程第１、一般質問を行います。質問通告書はあらかじめ配付しておりますが、質問者４名、質問件数は４件となっております。

この際申し上げます。一般質問の質問時間は各議員４０分以内と決定しております。質問時間の終了３分前と、終了時にブザーを鳴らしますのであらかじめご承知おきください。

それでは順次質問を許します。

長崎議員。

〔議員（５番 長崎厚）登壇〕

○議員（５番 長崎厚） 私は、運転免許証の自主返納者に支援を。

全国では、運転免許証の自主返納者に対して公共交通機関の運賃割引などの支援を行っています。

当町には、公共交通機関として、ＪＲ・函館バス・ニセコバスなどが運行しており、タクシーチケットのほかに運賃の割引など新たな支援が必要と考えますが、町長の考えをお伺いいたします。

〔議員（５番 長崎厚）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 運転免許証の自主返納者に支援を。お答えをいたします。

特に加齢に伴う身体機能の低下等のため、運転に不安を感じるようになった高齢ドライバーの方は、事故防止の観点からも自主的に運転免許証を返納することが望ましいと考えております。

しかし、自主返納後に移動手段が無くなることにより生活が不便になることから、自主返納を促進するためには、地域公共交通の充実が重要となります。

この地域公共交通の現状や課題を整理し、計画策定および実施に必要な施策検討のため、令和３年度に「長万部町地域公共交通活性化協議会」が発足され、活発な議論を進めております。令和４年度には、地域公共交通計画の策定および新たな公共交通の実証運行など必要な施策について、この協議会が実施主体となり、事業を推進していくこととなっております。

これらの協議を踏まえ、優先すべき施策として、本町における持続可能な地域公共交通網の形成の取組を推進してまいります。

「運転免許証の自主返納者に支援を」という質問でございますが、運転免許証を自主返納した方に限らず、交通弱者に対する支援として、タクシーチケット事業のほかに新たな支援の必要性が生じたときには、その状況に応じ必要な支援について検討してまいります。以上です。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（５番 長崎厚） 短い質問で答弁たくさんいただきましてありがとうございます。この自主返納を一般質問しようと思ったのは、北海道で支援と、支援サービスをやってる一覧表があるんですね。それでほとんどの市町村が行っているのですが。ただほかの町村では、６０歳からだとか６５歳だとか、自主返納に対して特化したサービスも行っている町村もあるんですね。長万部町はタクシーチケット８０歳からということで、自主返納者に対しても当然資格があるわけですから、そういうのに１万２,０００円の資格があるわけですから、配布されると思うのですが。ただ長万部地域公共交通活性化協議会というのもまた当然重要な位置にあらうかと、先ほど答弁いただいたのですが。この組織というのは、例えば構成なんですが、メンバーの構成なんですが、国縫だとか豊津だとか二股とか静狩とか、そういう地域の人たちもこれは入っていらっしゃるのでしょうか。

○議長（辻義雄） 中山まちづくり推進課長。

○まちづくり推進課長（中山裕幸） お答えいたします。地域の方の代表というか、町内会連合会の方、あるいは老人クラブの方、こういった方が委員として入っていただいて、みなさんの声を聞くという形になっております。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（５番 長崎厚） というのはですね、タクシーチケット、これは二股でも静狩でも、それから豊津、それから国縫、茶屋川、中央から見ると９キロとか１０キロぐらい離れた住民の方がいらっしゃるんですね。チケットを使うとなると２～３回しか使えなくなっちゃうんですね。それで、質問の中にありました公共交通機関を、バスなんです、路線バスを町内に限ってタクシーチケットで乗ることはできないか。金券のようなタクシーチケットですから、それも可能なのかなと。そういうものも一部住民の方からも要望がありまして。私自身もだんだんその年齢になってきましたので、ほかの人の要望も切実としたものがあるんですね。それで質問させていただいたのですが。バスを割引というかタクシーチケットで対応できるのであれば、時間はかかると思いますが、そういうお考えはないですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 今のお話なんです、以前お話があったんですね。タクシーチケットでバスに乗りたい、どうでしょうかって、バス事業者の方にお話を一回したことがあります。料金を受け付けるシステムが違うということと、それから長万部に営業所がないので、金券に切り替える時にわざわざ遠方から来なきゃいけないということも含めて考えると、今の段階ではちょっとうちの扱いとしてはできませんという答えをいただきました。

○議長（辻義雄） 長崎議員。

○議員（５番 長崎厚） いずれも答弁の中でも地域公共交通網の形成というのがあるわけで、新幹線のことも考えていけばバス転換の可能性も出てきておりますので、それでこの公共路線バスの利用というのも重要な部分で出てくるのではないかなと思うんですね。それで、地域公共交通計画、この中で実証運行など必要な施策、これを考えているというというような答弁をいただいたのですが、これはいつ頃やる予定なのか、今わかりますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） この地域公共交通計画の議論の中で、早ければ令和４年度にも実証実験ということも含めて車両の運行も考えているというその報告をいただいておりますので、協議会の進み具合を検討し、見ながらいきたいなと、そう思っています。

○議長（辻義雄） 以上で長崎議員の質問を終わります。

柏倉議員。

〔議員（９番 柏倉恵里子）登壇〕

○議員（９番 柏倉恵里子） 私は１点質問します。駅前のにぎわい創出をどう考える。

新幹線長万部駅のコンセプトが「湯けむり香る噴火湾、人と時代の交差点」と決まり、今後このコンセプトをベースに、鉄道・運輸機構が駅のデザインの素案を作成し、長万部町に示される事になります。

庁舎内でも新幹線推進課、まちづくり推進課が中心となり、いろいろな事が検討されていくことになると思いますが、この駅が単に通過駅にならないための方策を考えなければなりません。既存の町の施設も老朽化していることから、複合施設を駅の近くにとという声もあがっています。何より今、屋内の子ども達の遊び場がなく、他町に出かけている状況です。天候が悪くても子ども達の遊べる場所がほしいのと、高齢者の体力づくりを兼ね備えた施設、例えばジムのような施設が必要だと思います。

また、「湯けむり香る」との言葉から、駅の中に温泉の香りが漂う足湯なども視野に入ってきます。噴火湾が一望できる展望台なども作ってはいかがでしょうか。新たな観光を作り出す絶好の機会です。また、新幹線は駅舎の３階部分を走り、長万部町は新函館北斗駅から札幌駅までで一番長い明かり区間となります。新幹線からも噴火湾が見渡せるような駅舎の設計にできたら素敵だなと思います。町長の考えを伺います。

〔議員（９番 柏倉恵里子）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 駅前のにぎわい創出をどう考える。これにご回答申し上げます。

まちづくりの方向性としても大変重要と認識をしているところであり、昨年３月に策定した長万部都市計画マスタープランにおいても、現在の長万部駅に「駅前にぎわい拠点」と、新しく整備される高砂町側の新幹線長万部駅の位置に「駅西駅前拠点」を整備する方針となっております。

まず、行政が設置する都市施設について、現在の長万部駅前に、バスやタクシーなどの二次交通の拠点となる新たな駅前広場と、広域的な観光拠点となる「まちの駅」の整備を検討しており、さらに民間商業施設の誘致も視野に、土地区画整理事業の検討も進めているところであります。

また、新幹線長万部駅ができる高砂町側は、新幹線高架下に滞留空間、駐車場を整備する予定であり、さらに自由通路により東西市街地を接続する計画であります。滞留空間は、災害時等の避難場所を想定しておりますが、雨風や寒さをしのげる空間となることから、平時にもこういった利用方法がよいのか、広さや設備についても今後検討してまいりたいと考えているところであります。

さらに鉄道施設については、ご質問のとおり１月３１日に、長万部高校生が運営と進行を担当した新幹線駅デザイン検討委員会から新幹線駅デザインコンセプトについて答申を受け、今月２日に鉄道・運輸機構に要望してきたところであり、その付帯意見には「噴火湾を望む誰もが楽しめる展望台の設置」が付されているところであります。

今後、鉄道運輸機構から具体的なデザインの選定依頼が見込まれますが、その際にも高校生を中心とした検討委員会で検討してまいりたいと考えております。

町としては、これら長万部駅を中心に駅前の都市施設の整備や民間商業施設の誘致、町民の想いを込めた駅舎デザインによってにぎわいを創出し、まちの魅力・回遊性、そして地域の活力を高め、災害に強く持続可能なまちづくりを進めてまいります。以上です。

〔町長（木幡正志） 自席へ〕

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（９番 柏倉恵里子） 何点か再質問させていただきます。まず、コンセプトを決めるにあたりご努力をいただいた新幹線駅デザイン検討委員会のみなさまに心から感謝を申し上げます。とても素敵なコンセプトだと思っております。また、「噴火湾を望む誰もが楽しめる展望台の設置」という意見が付されていたとのことですが、それは私も全く同感であります。そしてさらに望めば、新幹線の乗客からも噴火湾を望めるような、そういう駅舎のデザインにしていただけないかなと思うのですけれども、こういう意見、今まで聞いているお話だと３案くらいデザインがくるのかなと思うのですけれども、そういう外が見える景色の駅舎のデザインというのは実際には可能なんでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 機構の方で、設計の、今回のデザインコンセプトを受けて、その３案の中からですね、さらに選定をしたうえで設計に活かしてくれるという話で。来年の春にはデザイン案ができあがってくるのかなと思っております。それらをひとつ楽しみにして、中間で報告があるのかどうかは別として、可能な限り希望の持てる駅舎にしてほしいということをお願いをしてきてあります。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（９番 柏倉恵里子） まず、駅舎の件はわかりました。ただ駅舎についても、多分私だけではなく多分ここにいらっしゃる議員のみなさまもそれぞれに思い描いている駅舎のデザインというものがあると思うのですけれど、この答弁では、高校生を中心とした検討委員会がまた新たに立ち上がるのかなと思うのですけれども、なかなか私たちの意見が、意見として取り上げられてそこにいくのは難しいことなのかなと思っております。それでなかなか語る機会もないのですけれども、議員の個々の意見を聞いていただく場なども設けていただければなと思うのですけれど、そういうことは可能でしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 可能であります。当然今度提案されてくる３案というのは固定化された３案なので、そのＡＢＣどちらを選びますかという選択をしていくわけなので。長万部町の選択委員会を開催すると同時に、町民のみなさまにもお見せしながら、こういったデザインが有効で長万部にぴったりあった駅舎のデザインなのかなということは、それは選択権のあるときに実際に目にする事ができるとそう思っております。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（９番 柏倉恵里子） わかりました。私もその３案できてくるのをすごく楽しみにしております。

まず、質問の中で、私が一番欲しいのは子どもの遊び場という事でして、今の答弁の中には滞留空間というお話が出てきております。この滞留空間に実際子どもの遊び場を作るという事はまず可能なのか、広さも設備についても今後検討していくということなので、まだ全然決まってない状況で、広さを答えるのはちょっと無理なのかなとも思うのですけれども、どのくらいというのは見当はついてるのでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 広さについては設計段階にこれから入っていくので、その段階で。３月の２

日に長万部町の方から駅舎の中でこういうひとつの施設の利用を考えていただきたいということで、3案提示させていただきました。1つは、資料館に展示してある鉄道村を長万部の新幹線駅に展示室を作っていただきたい。2つ目は、交流施設として、キッズルームや人の交流広場を一つ設置してくれたらありがたいと。3つ目には、渡島・檜山・後志・胆振、近隣の広報室のような形で一つスペースを用意していただきたいということで、この3案は機構の方に3月2日直接お願いをしてあります。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 今、キッズという言葉が入っていたので、それが遊び場になるのかどうなるのかわからないんですけど。私が思っているのは、これは私の希望というか、なんですけれども、ただ単に滑り台があればいいとか、あつまんべにあるような木育ができるようなそういう遊び場があればいいとかっていうことではなくて、ちゃんとした、本当にちゃんとした遊び場、例えばデザインも子どもの遊び場に長けているそういうデザインを、いろんな町村で作っているものの中でこういうのがいいなと思う、そういうデザインをする方に是非お願いしていただいて。これは今後何十年も使っていく遊び場となるものですから、簡単に遊具だけを設置すればいいという遊び場ではだめなんです。これから長く、生まれてくる子どもたちがどんどん成長していく中で、特に考えるのは小学校低学年までの子どもたちが遊べる場所というのが非常に重要になってくる。大きくなると子どもたちは自分たちで遊びを見つけ、自分たちの遊びをする。また家でも遊べるからいいんですけど。やはり小さい子どもたちを抱える親は、どこかでこの子どもたちが遊びたい思いを発散させなければならない。これが天候が悪い日が続くと、ずっと家にいなければならないというこの状況が大変なんです。それなので発散できるような、考えられた、本当に考えられたデザイン性のある子どもたちの機能性がとてもよい、そういう遊び場を考えてほしいということです。

そして、いろんな新幹線の駅、私たちも視察してまいりました。でも新幹線に乗るだけの駅では、まったく人通りがなかったりとか、そういう寂しいところも実は見てきております。そういう駅には絶対したくないという思いがあり、その子どもたちの遊び場が近くにあれば、子どもがいるところ親も必ず、大人も必ずいるわけですので、そういうところのにぎわい創出にも一役買うのかなというふうに思っておりますので、そういう段階の考え方の子どもの遊び場というのを考えていただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） ただ新幹線の駅というのは、そこを運営していくのはJR北海道なんです。だからJR北海道との協議の中で、どの程度までそのスペースが取れて、駅としての機能を果たしながら人の交流もときにはできるような、そういう施設にしてほしいということの要望だけはあげてきている。ただその結果が「いいですよ」って返事ではない。あくまでも要望なんです。駅としての機能はあくまでもそれを尊重しなければいけないということで。ただ、遊び場の提供のような形で予定通りの平米が取れるかどうかというのは、ちょっと国のお金でやることなので、今の段階では約束ごととして、このくらいの広さで、こういうものが付くんですよという話については、今の段階で「はいそうですね」という話にはならないと思うので、今後ここ1年のデザインの幅の中で、できればこういう要望もありますよという事をお願いしていく立場で、先方さんに鉄道・運輸機構のほうにお話をさせていければと思っております。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 確かに駅ナカに作るということは非常に難しいことなのかなという

のは思います。でももしそれが無理であれば、ほんとに駅の近くにそういう施設が誕生することを切に希望したいと思います。それで私もなかなか、こういう駅にしたいという思いがあっても、夢物語みたいな形になってしまうんですけども。先ほど言ったように、新幹線からこの綺麗な噴火湾が一望できるような形の駅舎があって、子どものにぎわいがあって、そして、東西の通路ができるわけですから当然人の出入りもたくさんあると思います。まして、そこに商業施設が誘致して来ていただけるなんていうことになったら、ほんとにそこにもう駅前のにぎわいが創出されるのかなと思うので、そこはとても楽しみにこれからしていきたいなと思います。

それで、今まで町長二期務められて、こういう駅にしたいという町長の思いを聞いたことがないんですね。町長は、検討委員会にも任せているし、自分が意見を言うと、意見誘導になるという形で、なかなかご自身の思いを語られてこなかったところなんですね。でも、実はこういう駅にしたいんだという町長の思いはあると思うんですよ。それをぜひお聞かせください。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 発言というのは本当に誘導してしまいますので、一回発言しちゃうとそれに意見が固まってくる可能性があるんで、広くやはり意見をいただいて町民の思いのこもった物を作るということについては、たくさんの意見をいただくためには、やはり意見誘導をしないというのが現実なんですね。

今の駅舎の関係については、やっぱり3階建ての駅になって、既存の列車、特急は1階なんです。特急が1階に着いて、3階に新幹線。その誘導路線というのが2階にあって3階に登っていくという。こういう路線の駅なんで、かなり特殊な駅の使い方になるのかなという話もいただいておりますので。そこら辺のことを勘案したら、やっぱり3階は眺望のいい景色の見えるそういった展望にさせていただきたいという話は、運輸機構の方には話をさせていただいて、できるだけ北海道の雄大な景色をぜひ見れる駅を3階に作っていただきたいという話は、鉄道・運輸機構のほうには届けてありますので。ただ、駅の機能をどうするかということについて、これはやっぱり本来は、今回の設計もJR北海道がやる予定だったんだけど、JR北海道ではなく、直接、鉄道・運輸機構が設計をするという、基幹駅としての機能を果たせる駅にしたいということで、運輸機構が今回設計をするという形になりますので。そこら辺のところは機構さんも何回も現場を見ながら試行錯誤、これから一本一本線を引いてく。また今、新たに自由通路のCGもできあがってきたので、それらも含めて一回報告会をやりたいということでお話をするような機会を作りたいと思ってますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

○議長（辻義雄） 柏倉議員。

○議員（9番 柏倉恵里子） 最後にしようと思ったんですけど、もう1問すみません。やっぱり町長の意見が聞けなかったんで、もう1問聞きます。鉄道村の資料館という話があったんですけど、やっぱりこのコンセプトから言っても、「人と時代の交差点」ですか、ここから思い巡らすと、国鉄時代のものから今に至るまでの歴史的なものがわかるような形のものにしたいのかなというのがあるんですけども。そこら辺もやっぱり配慮した鉄道の資料館ということになるんですかね。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 長万部、国鉄の町として栄えてきて、そして衰退したけれども、新たにまた新幹線で蘇ってくる。その蘇りの中で貴重な資料が資料館には残されてる。鉄道村の資料。これ鉄道・運輸機構も視察をしていきました。見てます。我々もその教育委員会に資料残してある、展示品の資料のリストも全部揃えてありますので、それらも出してですね、やっぱり長万部の歴史と

いうのは鉄道だよなっていう、それらを後世に伝えていくために、あのスポットにあるものをすべて新しい新幹線の駅舎の中でたくさんの方に見ていただきたいし、中にあるものを大事に展示を重ねていけるようなスタイルにしていきたいと思って、鉄道村の設置については第一に要望してきておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

○議長（辻義雄） 以上で柏倉議員の質問を終わります。

高森議員。

〔議員（7番 高森功治）登壇〕

○議員（7番 高森功治） 私の質問は1点であります。長万部駅周辺における土地区画整理事業等の方向性について。

昨年3月に策定された「長万部都市計画マスタープラン」では、今後20年の戦略的まちづくりの方針として、長万部駅周辺における重点的な都市整備の推進を掲げており、内容として本町通の拡幅整備と一体的な街路事業整備を推進するとともに土地区画整理事業の導入を検討するとされております。

その後、町では昨年10月に「土地区画整理事業化検討業務委託」を発注し、本定例会の町政執行方針では、土地区画整理事業の導入を検討することでありましたが、現在のところ駅前周辺の本町通商店街や本町通の拡幅整備などがどうなるかという話は、まだ聞こえてはきません。

そこで町長に、

①土地区画整理事業について。

②本町通の拡幅整備について。以上2点について、今後の方向性をお伺いいたします。以上です。

〔議員（7番 高森功治）自席へ〕

○議長（辻義雄） 木幡町長。

〔町長（木幡正志）登壇〕

○町長（木幡正志） 長万部駅周辺における土地区画整理事業等の方向性について。回答をいたします。

町では、都市計画マスタープランの方針に基づき、土地区画整理事業の可能性を検討してまいりましたが、将来の新幹線長万部駅東口駅前広場と本町通の拡幅整備に加え、防災面において、線路より海側の市街地が津波浸水区域であるものの、高層建物が少ない現状を踏まえて、本町、大町地区の住民の津波避難施設を兼ねた商業施設の誘致と、また、現在衰退しつつある本町通商業区域の再編を視野に入れて、土地区画整理事業を導入する方向で検討を進めてまいります。

施行区間は、本町通の駅前から役場通前までの区間で、奥行きは、本町通から海側と線路側それぞれ町道に囲まれる区域を想定し、施行区域面積は約3ヘクタールを想定しており、商業施設等誘致に向けた大規模区画の造成、区域内の土地区画の整理、本町通および町道の拡幅整備を計画いたします。なお、土地区画整理事業の実施にあたっては、事業計画を策定し、北海道の都市計画審議会での審議が必要となることから、新年度予算において、事業計画に必要な基本構想の策定に係る予算を計上しております。

次に、本町通の拡幅についてであります。町では、町道本通線の駅前から室蘭方面の国道37号交点と駅前広場について、道道昇格のうえ、北海道の街路事業で拡幅整備を要望してきたところであります。北海道の要望ヒヤリングでは、北海道の街路事業の単独整備では、事業の費用対効果に問題があると難色を示されているものの、土地区画整理事業などの面的な都市整備であれば、まちづくりに協力するなどの検討は可能との見解があり、土地区画整理事業の区域内においては、本

町通の拡幅を北海道で実施していただけるものと見込んでいるところであります。以上であります。

〔町長（木幡正志）自席へ〕

○議長（辻義雄） 高森議員。

○議員（7番 高森功治） それでは何点か再質問させていただきます。土地区画整理事業を導入する方向との答弁でございましたけれども、この事業のまず規模と金額ですね、町の負担がどれくらいになるのか、それから事業のスケジュールをお聞きます。

○議長（辻義雄） 岸上新幹線推進課長。

○新幹線推進課長（岸上尚生） ただいまの質問についてお答えいたします。土地区画整理事業の総事業費としては、およそ31億円。長万部町の負担額は条件により8億円から9億円程度と想定してございます。また事業のスケジュールにつきましては、新幹線開業予定の2030年度までに事業完成を目指すのが望ましいと考えているところでございます。以上でございます。

○議長（辻義雄） 高森議員。

○議員（7番 高森功治） 長万部にとっては、8億から9億という金額は非常に大きい金額とは思いますが、それでもこの事業は信念を持ってやらなければいけない、そういうお考えですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） この時期に土地区画整理事業を含めて駅前広場の関係も含めてやらないと、戦前戦後から動いてない変わってない長万部の町を変えることができない。それが8億9億が高いか安いかってのは、これは議論的になる話ですが、1年でできる訳でもなく、それに伴って商売をしている人方に、別の場所で一回仮設でも商売していかなければいけないということもあるので、その人方にもきちっと寄り添った形で事業の進捗を進めていかないと、ここの役場通り前から駅前までの両側の商店街に通じる・・・（聴取不能）

○議長（辻義雄） 暫時休憩します。

10時38分 休憩

10時42分 再開

休憩前に引き続き会議を開きます。

高森議員。

○議員（7番 高森功治） 役場前通りまでの事業区域という話だったんですけれども、元町地区の本町通の街路拡幅の可能性はあるのかなのか、お聞きます。

○議長（辻義雄） 岸上新幹線推進課長。

○新幹線推進課長（岸上尚生） ただいまのご質問にお答えいたします。元町地区の街路拡幅につきましては、北海道との協議では、役場前通りから国道までの交点は街路事業単独整備が相応しい、との意見がございまして、事業の実施可能性はあると考えているところでございます。ただ順番的には、土地区画整理事業の整備後になるかとは思いますが、引き続き北海道の街路事業での拡幅整備を要望していくところと考えているところでございます。説明は以上でございます。

○議長（辻義雄） 高森議員。

○議員（7番 高森功治） 土地区画整理というのは、多分長万部に住んでる人たちは誰も経験したことがないと思うんですけれども。町民も一般的にイメージができないと思います。この町民や区域内の関係者に詳しい説明をする必要があると思うんですけれども、その辺はいかがですか。

○議長（辻義雄） 岸上新幹線推進課長。

○新幹線推進課長（岸上尚生） ただいまの質問にお答えいたします。その点につきましては、住民説明会と、また、権利者向けの説明会を準備ができ次第４月以降に実施したいと考えているところでございます。また併せまして、まちづくり新幹線調査特別委員会においても詳細をご説明してまいりたいと考えているところでございます。説明は以上でございます。

○議長（辻義雄） 高森議員。

○議員（７番 高森功治） 私はこの土地区画整理事業には大賛成でございます。長万部町にとってこの町の活性化の最後のチャンス、もしかしたら５０年後１００年後の長万部の姿を左右するような事業になると思っております。なので、もっとお金をかけてインパクトのあることをやってもいいかなと思っているんですけども、その辺はいかがですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 大変ありがたい質問をいただいて、ほんとにありがたい。８億がいい９億がいいっていうのではなくて、やっぱりできるだけしっかりと土地区画整理事業をやって町を再編していくという考え方と、その後におよんで元町地区もまた土地区画整理の事業が継続していけるような事業性のあるものにしていきたい、そう思っております。

○議長（辻義雄） 高森議員。

○議員（７番 高森功治） 先ほども言ったんですけども、ただ長万部には区画整理事業をやったことがある人がいません。なので今まで他町で実績のある、例えば商社ですね、伊藤忠だとか丸紅だとか三菱地所だとか東急不動産とか、どこでもいいんですけどもそういうところの力を借りるとか、例えばそういうところで働いていたＯＢの方達の力を借りるだとか、そのＯＢの中に長万部出身の方がいたらすごい心強いんですけども、そういうような事は考えていますか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） できるだけ知見をいただきながら、完成度の高いものを持ってくるとすれば、長万部町の力だけでなく、外部の知見は取り入れていきたい、そう思っています。

○議長（辻義雄） 高森議員。

○議員（７番 高森功治） 最後に防災の話もここに出てるんで。今年も３月１１日が過ぎまして、１１年ということで早いなという感じがいたします。ぜひこの防災面で想定外だったという事が無いように、ないがしろにしないで、ここはきっちりやっていただきたいんですけども。どうですか。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） もちろん防災減災というのはこれからの計画を立てるにあたっては、それをこみこみで考えていかないと、将来に禍根を残さないようにしていくためには、防災も含めて検討していくということになります。

○議長（辻義雄） 以上で高森議員の質問を終わります。

辻紀樹議員。

〔議員（２番 辻紀樹）登壇〕

○議員（２番 辻紀樹） 私は１点、３期目への出馬の意向は。についてお伺いいたします。

早いもので、木幡町政誕生から２期８年を迎えようとしています。この間「新幹線駅の地上駅から高架駅へ」・「高校生までの医療費無料化」の実現、新幹線駅を中心としたまちづくり計画や、各種事業計画も作成されています。

今後の課題として、函館本線の余市～長万部間の在来線は廃線とし、バス運行への転換との方向

に沿線町村で確認されていますが、長万部町にとって最も重要な函館～長万部間については並行在来線の存廃の方向性が示されておらず、貨物部門については国や道から何も示されておられません。

町立病院建設については、早期の着工を要望する声も多く聞かれます。また、長万部高校の新年度入学生は13人との新聞報道がありました。道教委の指針では、2年間入学生が10人を下回ると廃校と示されています。

多くの課題は残されていますが、町長としての8年間の経験を活かし、多くの課題・難題に積極的に取り組むとともに各種計画の実現に向け、引き続き調整を担うお考えがあるかどうかお伺いたします。以上であります。

〔(2番 辻紀樹) 自席へ〕

○議長(辻義雄) 木幡町長。

〔町長(木幡正志) 登壇〕

○町長(木幡正志) 3期目への出馬の意向は。ということでございますので答弁をさせていただきます。

私は、町長の重責を担わせていただいて以来、今日まで町民の生命と財産を守るという信念のもと、町民の皆様の声に耳を傾け、夢と希望を持ち安心して暮らすことができるまちづくりを目指し、努力をしてまいりました。

本年7月12日告示、7月17日投開票の長万部町長選挙にあたっては、これまでの2期7年8か月を振り返り、今日まで熟慮を重ねてまいりました。

就任以来、防災・減災対策の強化、子育て支援の充実に取り組み、東京理科大学長万部キャンパスと平成27年に締結した包括連携協定による揺るぎない密接な関係は、新型コロナウイルス感染症で途絶えておりますが、令和5年4月には学生の元気な歓声がこだまする環境になることを願い、温泉水供給の実現と連携の強化を図り、B&G財団との不断の親密な交流も継続しているところであります。

来年度以降は、並行在来線「長万部・余市間」のバス転換の前倒しや「函館・長万部間」の協議、将来に向かって持続可能な地域公共交通計画の作成、開基150年を迎える令和5年には新幹線長万部駅開業に向け、本町通の道道拡幅や土地区画整理事業を含めた都市計画決定など、今まで積み重ねてきた多くの事業が形になって見えてくる時期でもあり、また、津波の被害が心配される町立病院の移転新築事業の立ち上げなど、財政状況には厳しさもありますが、行政は立ち止まることができません。

福祉・産業・教育、進む人口減少・少子高齢化への対策や、国が推進するゼロカーボン、行政のデジタル化、SDGsを実践する町として、アフターコロナを見据えた取組を推進するため、来たる町長選挙に立候補を決意し、変わらぬ長万部から、変わる長万部に全身全霊をもって努力をしてまいります。

〔町長(木幡正志) 自席へ〕

○議長(辻義雄) 辻紀樹議員。

○議員(2番 辻紀樹) 大変力強い立起表明をいただきました。それで文書でお聞きしたんですけども、いろんな思い、8年間の、町長の頭にはあると思いますし、今後本当に取り組む姿勢、難題が多いものですから、しっかりとした取り組みをされると思います。今、読み上げた他にまだたくさんものがあります。それで、今日はたくさんの傍聴の人も来ています。町長の今これから思いをですね、聞きたいなと思っております。もしその中で公約等があるのであれば、公約はちょっと

難しいのかもしれませんが。そういう意味で、改めて文章でなくて今頭にある中の思いをですぬもう一度発信していただければ、わたしの質問はそれで終わりたいと思いますので、よろしくお願いします。

○議長（辻義雄） 木幡町長。

○町長（木幡正志） 今から7年何か月前、初めて選挙に出た時に、まさか勝てるとは思わなかった。これ本音です。しかし課題もあったんで。挑戦しようと思ったのは、平成18年の北海道新幹線長万部構想。これは議会を通じて国土交通省に出された。平成24年に長万部町で起工式をやりました。そしてその後に町長選挙の立候補にあたって考えたのは、今の並行在来線と同じ駅の中に新幹線来るってということと、合わせてアンダーパス、2か所に400メートル近いアンダーパスを2か所、元町とそれから火防踏切の付近に作るということの計画は、これは将来に向かって無謀だと。この計画はどうしても、やれるんだったら破棄して別な方法でやってほしいという思いがあったて、立候補してから当選させていただきました。

そしてその間一番先に手をかけたのは、子育て支援の医療費の無料化と、それから保育所の無料化もやりました。そしたらやっぱり新幹線なんかしなきゃいけないということで、議会の皆さんや議長さんにも同行していただいた機会もございましたけれども、なんとか認可変更を取りたい。まさか2年で認可変更がいただけると思わなかったけども。その間横浜の鉄道・運輸機構、それから国土交通省、何度も足運んで、長万部の実態を訴えて、そして今の姿を見ることができた。この認可変更を、27年だったと思うんだけど、6月に初めて電話いただいて、そのときに6月30日認可変更を出しますよと電話来たんですね。ただし、まだメディアにも記事をリリースしてないんで、これは31日まで黙っててくださいという話であったんで、それはもう我慢できたんですが。今ここにきてやっぱり新しい駅ができる。そしてこの間、3月2日に要望書も届けてまいった。その要望のとおり今度設計に反映されて来年初めて駅舎の、高高架の駅舎の設計が見れる。そして今年4月には、明かり区間7区間ほとんど工事発注をするということで、3月2日にもお話をいただいてまいりました。そして5月から、来年の令和5年の工事を開始すると、これは今までトンネルというのは遠くにあったものだから見えてない。それが今度は目のあたりで見える。それが来年令和5年の春先から工事が始まってくる。しかしこの工事というのは市街地にあるものだから、やはり今まで遠くて音も聞こえなかった工事音が市街地の住宅まで聞こえてくる可能性って十分にある。そしたらやっぱり今度は苦情も出てくると思う。工事の音がうるさい、いや車の通りがどうだっていうことで、非常に大きな話題もなるし、苦情も出てくる。これをやはりしっかりと町民の人方にもお願いをし、そして我々もやっぱり工事の進捗に努力をさせていただくということを踏まえて、初めて新幹線の姿が見えてくる。これはやっぱり今までやってきた思いのたけというか夢である。そして先ほど公約という話が出たんですが、先ほどの答弁の中で話をさせていただきました。そしてお互いに今日答弁、一般質問の中でも答えてきましたけれども、まだまだやる課題は残されている。

山線の在来線問題は、これはひとつ議会の人方にも報告したときがあったんですが、バス転換で決定をいたしました。27日日曜日ですけれども、また後志線の会議があって、最終決着が見られるんだろうなと思っております。しかし、函館～長万部間、なんの今話題も出されておられません。函館～長万部間の協議会で、今残された委員として、残された継続してお話をしてきたのは、私だけなんです。今年七飯の町長さんが退任をされます。そうすると古くから連絡協議会の中で協議を進めてきた、たった1人残された私なんですね。だからできれば函館方面の在来線の問題も解決の

糸口を付けていきたい。

だから本当にやることは、今土地区画整理を含めてやるがたくさんあります。この区画整理ひとつにしても、やはり何年もかかる。2030年まで完成ということになると、7年も8年もかかる大きな事業、これを町民の皆さんに理解してもらって、そして本当に町民の皆さんに心の中に寄り添った形の中で、工事を計画を進めさせてほしいなと思ってもおりますし、そうした問題というのは、やはりこれから体を張って、全身全霊で頑張っていかなければならないなということ、先ほどからいただいた頼もしい質問もございましたけれども、やはり今躊躇せずにやるということ。それと同時に今変えなかったら長万部変わらない。変わらない長万部を70年も80年も続いてきたところを思いっきり将来に向けて変えていく。これが我々が次世代に残す長万部の町だということを含めて、これから真摯に取り組んでまいりたいなと思っております。津波対策もそうだし、やることは山積しているんだけど、これを議会の皆様、そして町民の皆様のご理解をいただいて、努力することによって完成に近いものに持っていきたい、そういうことを考えながらやはり変えていく、長万部を作っていきたいということの決意を持って、今回立候補することにしましたので、皆様のご支援よろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございます。

○議長（辻義雄） 以上で辻紀樹議員の質問を終わります。

以上をもって一般質問は通告どおり全部終了いたしました。これで一般質問を終わります。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

◎休会の決定

○議長（辻義雄） お諮りいたします。予算審査特別委員会に付託された議案審査のため、16日と17日の2日間を休会としたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

ご異議なしと認めます。

よって、16日と17日の2日間は休会することに決定いたしました。

なお、本会議は3月18日午後1時30分から再開いたしますのでご承知おきください。

◎散会宣告

○議長（辻義雄） それでは本日はこれにて散会します。どうもご苦勞様でした。

11時02分 散会
